

依存症支援について

山本地域振興局福祉環境部 企画福祉課

1 目 的

依存症問題を有する者への対応については、周囲の理解と支援者の継続的な関わりが重要となるが、関係機関同士の連携体制が整備されていないことや当事者及びその家族が支援に必要な情報が十分に得られていないことで支援機関による介入に難色を示すなどにより、当事者やその家族が適切な医療や支援を受けられていないことが多い。

当事者及びその家族を医療と支援につなげ、当事者等が安心して地域で暮らせるよう引き続き地域全体で依存症への理解を深め、関係機関が継続的に支援できる体制を構築する。

2 管内の現状

(1) 依存症に関する相談件数（カッコ内は実人数）

令和2年度	37件	(10名)
令和3年度	22件	(6名)
令和4年度	11件	(5名)
令和5年度	8件	(5名)
令和6年度	10件	(3名)

※令和7年1月14日時点

(2) アルコール依存症の患者数（令和6年3月31日時点）

自立支援医療（精神通院）受給者	31人
精神障害者保健福祉手帳所持者	16人
医療保護入院者数	3人

3 令和6年度の取組

(1) 相談対応

当事者・家族等からの相談に対して必要な助言を行った。

(2) 支援関係者へのアンケート調査

【対象】市町、精神科医療機関相談室、相談支援事業所、社会福祉協議会

【内容】アルコール依存症に関する相談対応の状況や他機関との連携、支援者の意識に関するアンケート調査を行った。

【結果】16機関（84.2%）から回答があった。11機関で相談を受けており、特にアルコール、ギャンブルに関する相談が多かった。他機関と連携しながら関わっている機関が多くある一方、治療機関や相談窓口の周知及び自助グループ等の社会資源の確保などが課題である。

(3) アルコール依存症に関する支援者向け研修会

【開催】令和6年11月27日（水） 支援関係者11名参加

【対象】市町、精神科医療機関、相談支援事業所、社会福祉協議会、警察、消防

【内容】アルコール依存症の家族支援についての講演及び事例の意見交換を行った。

4 課 題

- ・疾患の特性や複雑な問題に対応できるよう支援者のスキルアップが求められる。
- ・相談体制は整備されているが、十分に周知されておらず早期の相談・治療につながっていない。
- ・行政・相談機関・医療機関・自助グループ等の協力体制の強化が必要である。

5 令和7年度取組

(1) 相談対応と支援体制の充実

当事者・家族等の相談に引き続き対応し、必要に応じて回復プログラムを活用し継続して対応する。
様々な方法により依存症相談についての情報発信を行う。本人やその家族を自助グループ等につなぐ働きかけを行うとともに、管内での開催について検討する。

(2) 普及啓発活動

リーフレット、ホームページ、広報紙等を活用し、地域住民へ正しい知識の普及及び相談窓口の周知を行う。

(3) 研修会の開催

支援者向けの研修会を開催する。

働き盛り世代の健康づくりの推進について

山本地域振興局福祉環境部 健康・予防課

1 現状と方向性

管内では、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病が深く関連する死亡率が全国、県と比較し高い状況にある。また、管内事業所における健診結果の有所見率（血圧・脂質等）は全国、秋田県と比較し高率になっており、働き盛り世代からの健康づくりが重要である。

こうしたことから、職域に向けて健康づくりの普及啓発を行うほか、関係機関と連携しながら、企業や事業所が従業員の健康づくりに取り組みやすい環境づくりを推進する。

2 今年度の取組

- ・職域への健康教育、普及啓発の実施

食事、運動などの健康づくりや生活習慣病予防に関する出前健康教育、啓発媒体の配布

- ・喫煙に関する知識の普及、公共施設における受動喫煙対策の周知
- ・心の健康づくりに関する事業

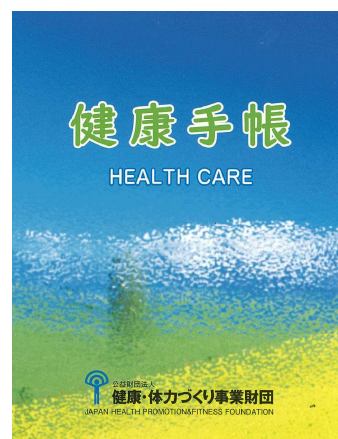


○職域出前健康教育実施先

実施月	会社・組織	内容（テーマ）	人数	備考
10月	河川国道事務所	感染症予防について	10	健康・予防課職員
1月	金属部品製造	生活習慣病と健康づくり	52	〃
1月	精密部品製造	〃	8	〃
2月	保険会社	歯と全身の健康について	10	歯科医師

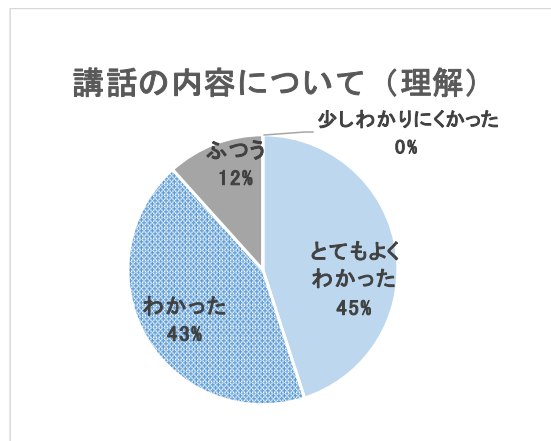
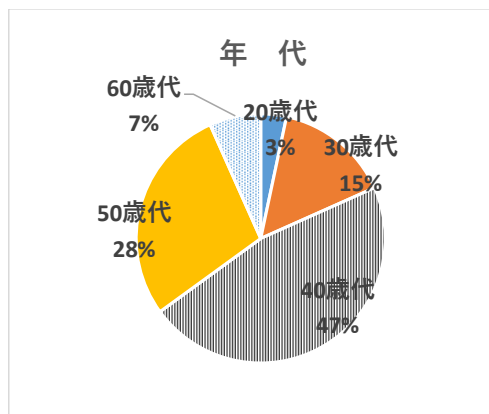
○啓発媒体（内容：健康づくり）配布先

配布月	会社・団体	部数
12月	木材工場	60
12月	商工会議所	20
1月	精密部品製造	60
1月	金属部品製造	20
2月	製薬会社（製造）	200
2月	保険会社	10

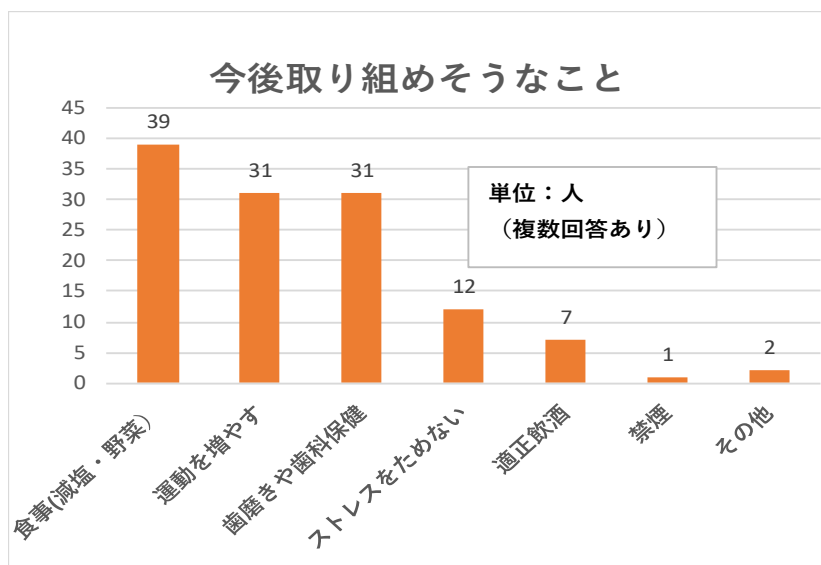


3 健康教育実施後アンケートまとめ （1月2社実施分）

出前健康教育 テーマ：「生活習慣病予防と健康づくりについて」
アンケート実施 計60名



9割の方がよくわかった・わかった と答えており、わかりにくかったという回答は0だった。



健康教育を受けて、今後実践出来そうなことは（左グラフ）
食事や運動、歯磨きや歯の健康と答えた方が多かった。

また、自身の健康で「現在気になっていること」は

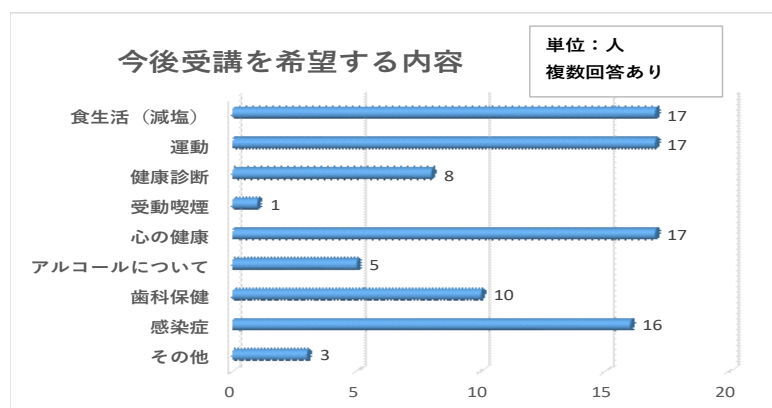
- ・運動不足
- ・食生活
- ・コレステロール値
- ・睡眠について

 などの回答があった。

今後また健康教育を受講する場合、希望テーマは

- ・食生活
- ・運動
- ・心の健康
- ・感染症予防

 などが多かった。



〈実施結果〉

受講者はほとんどの方が「今後何かの健康づくりを実践してみたい」と回答した。また、出張方式で職場に出向くことにより、働く人が健康教育を受けやすい環境を提供できた。

令和6年度食品安全・安心推進事業について

山本地域振興局福祉環境部 環境指導課

1. 概要

県では食品安全・安心推進事業として、情報提供、リスクコミュニケーション講座の開催等、消費者の視点に立った食品の安全・安心に関する総合的な施策を推進することにしており、全県の各保健所単位で「手洗い教室」や「スリーライン懇談会」等が開催されている。

昨年度、能代地区は「のしろ産業フェア」内で手洗い体験やリーフレットの配布等を開催したが、令和6年度は従来の講義のみの食品衛生講習会を拡充し、手洗い体験を取り入れた講習会として実施することにした。

2. 実施状況

1) 能代市南地域包括センター主催の介護予防教室内

日 時：令和6年9月24日（火）10：30～11：30

場 所：浅内自治会館

参加者：9名

講 師：保健所2名

内 容：食中毒予防の講義、手洗い体験（ATP 検査）

2) 能代山本食品衛生協会主催の手洗い教室内

日 時：令和6年10月22日（火）11：15～12：00

場 所：ニツ井小学校 家庭科室

参加者：3年生26名

講 師：保健所2名 能代山本食品衛生協会5名（日本食品衛生協会認定手洗いマイスター）

内 容：食中毒予防の講義、手洗い体験（ATP 検査、ブラックライト）

手洗いの大切さ実感
ニツ井小3年生 細菌の減少に驚き



能代山本食品衛生協会（塚本民雄会長）の食中毒予防手洗い教室出席講座はこのほど、能代市ニツ井小（安井敦子校長）で開かれた。児童たちは手洗いの前後で手に付着している細菌の数がどれだけ変化したかなどを確かめ、食中毒と感染症予防には手洗いが効果的なことを学んだ。ノロウイルスなどによる食中毒や感染症が流行しやすい冬を前に、子どもたちに正しい手洗いの仕方を知ってもらおうと、希望する学校を対象に行っている事業。同校には日本食品衛生協会が認定する「手洗いマイスター」や能代保健所の職員らが訪れ、3年生を指導した。

せっけんで手を洗う際は手のひら以外にも、指先、手のひらのしわ、親指、手首を洗い、手洗後はしっかりと乾燥させることが大切だと学んだほか、手洗いの前後で手に付いている細菌の数がどれだけ変化するのか、専用の計測機を使って確かめた。

児童たちは、手洗いの手順を示したチャートを確認しながら爪の間、指関節のしわまで丁寧に洗った後で再び計測。手洗い前は、汚れがひどい場合には1万以上の数値が示されることもあるが、しっかりと手洗した後は100～200まで大きく下がることも珍しくなく、児童たちは計測器に示される結果に驚き、手洗いの効果を実感していた。

手洗い前には5700以上あったのに、手洗い後は193まで減ったという松嶋圭臣君は、「予想していた以上に少なくなった。食中毒になんたことはないけど、手をきれいに洗うことが大切だと思った」と話した。